

(7) 竹根の漂白試験

1. 担当者 工業技師 松田 健一
2. 目的 竹根の漂白（竹材の漂白）については比較的、文献及資料等が少ないが1.2の方法は取扱い方、時間的な問題もあり、大量に之を実施する場合色々な問題が思考されるので特殊な設備を必要としなく簡単に行ない得る処理を試みるものである。

3. 概要 現在漂白剤に使用される薬剤としては幾多の薬剤が考えられるが竹製品関係或いは工業的利用価値のあるものは大略次の薬品類が考えられる。

1. クロールカルキ
2. 蓼酸
3. 苛性ソーダ
4. 過マンガン酸カリ+硫酸ソーダ
5. 過酸化水素
6. 亜塩素酸ナトリウム
7. 其の他

(実験1)

カルキ水溶液1%中竹根を約1時間浸漬水1000cc

醋酸50gの溶液にて30分間煮沸水洗

(実験2)

亜塩素酸ソーダ (NaClO_2) 30g

蓼酸 ($\text{C}_6\text{H}_8\text{O}_6$) 5g

10~20分 煮沸水洗い後晒

(実験3)

H_2O_2 (過酸化水素5%) + NH_4OH (アンモニア水14%)

4. 成果 一番好結果をあげ得るのは、 H_2O_2 に依る、漂白法である H_2O_2 の使用は比較的素地を傷めず取扱いも容易であるが漂白用の容器に絶対に金属のものを使用しない事と濃度が比較的高い為経済的に相当な問題が残される。只薬品による漂白全般を通じて、云える事は竹材そのものあく迄も漂白であり、油抜き後乾燥した当時の落付いた淡黄色の色調は得にくい事である。之については漂白後の天日晒露とか「パーカ」に依る製品の仕上等色々と考えられるがこの研究においては薬品使用による竹根の漂白迄を限度として実験を終つた。今后竹幹の内外部の漂白について研究を続ける予定である。

(8) 「やまぐるま」材の染色研究

1. 担当者 工業技師 山田 式典
2. 目的 本県屋久島に比較的多量に産する「やまぐるま」材の模板に対して、その優美な素理を失うことなく、淡い色彩を出し、家具化粧用材として使用する材

を得るため

3. 概要

1. 煮沸液浸漬処理
2. 木酢酸鉄：水=1：60の溶液に浸漬
3. neosilox 60%溶液にて漂白後
木酢酸鉄：水=1：40の溶液に浸漬
4. 木酢酸鉄：水=1：20の溶液に浸漬
(浸漬時間はいずれも15分間)

4. 成果

木酢酸鉄：水の割合を1：60，1：40とした場合はヤ、着色においてムラがあり薄目の仕上りとなつた。又 neosilox にて漂白したものは大体において良い結果が得られた。1：20の割合のものは濃度，塗理の生かし方とも非常にすぐれている。

家具として使用するため充分に利用価値ありと思はれる結果を得た。

(9) 台湾桐の着色試験

1. 担当者

工業技師 山田式典

2. 目的

現在，その利用範囲のきわめてせまい，タイワン桐板の利用度拡大，高級家具等々の利用を計る意味において今回はさしあたり洋酒棚内側化粧用として利用出来得るか否かにつき検討するために着色試験を行つた。

3. 概要

染色方法

材料	1.5 g
染料	3% (0.045 g)
助剤	10% (0.15 g)
浴比	1：50
温度	60～80 (°C)
時間	60 min

左の条件でイエロー，オレンジ
ブラウン，レッド，ブルー，グレー
ブラックの各染料を試料各3点に
使用染色を行つた

4. 成果

染色の結果ブラック，ブラウン，イエローの最も濃度の高いものは充分使用し得ると思はれる結果を得た。

(10) 桜材の人工乾燥における含水率低下に伴う木材の収縮状態について

1. 担当者

工業技師 山田式典

2. 目的

木材が乾燥するにつれて生ずる収縮については，一般にセツイ方向に対しては，問題がなく，切線方向対半径方向については，2：1位の割で収縮され